

アスリート特集 第4弾

三阪洋行^{さん}

車いすラグビー

日本代表アシスタントコーチ



三阪 洋行（みさか ひろゆき）。

1981年6月21日。東大阪市生まれ。

高校時代、ラグビーの練習中に起きた事故で頸椎を損傷し、車いす生活となる。入院中に車いすラグビーを知り、新たな競技人生をスタートさせた。わずか4年後には最年少で日本代表に選出され、3大会連続（2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン）でパラリンピックに出場。現役引退後は、日本代表のアシスタントコーチに就任し、2016年リオパラリンピックで銅メダル、2018年世界選手権では金メダルを獲得するなど、日本代表の躍進に大いに貢献した。

2018年10月、東大阪市スポーツみらいアンバサダーに就任。現在は、コート外においても、自身の経験を活かして障害者への認識や理解を促進する講演・活動に取り組んでいる。

～悲願のメダル獲得～

そして東京2020大会へ

2016年9月、リオパラリンピックで車いすラグビー日本代表は初の銅メダルを獲得し、長年の悲願を見事成し遂げた。だが、それまでの道のりは長く、そして険しいものだった。

2004年、アテネパラリンピック初出場で8位となって以来、着々と力をつけてきた日本代表。三阪さんをはじめ、選手らは海外リーグに挑戦するなど更なるステップアップを積み重ね、続く北京では7位、ロンドンでは4位と着実にメダルに近づいたものの、あと一歩のところまで惜しくも届かなかった。

ロンドン大会を最後に、現役を引退した三阪さんは、日本代表アシスタントコーチに就任。引き続き、代表初のメダル獲得を目指し尽力することとなる。



現役時代の三阪さん

2015年秋、アジア・オセアニア選手権。パラリンピック出場権が掛かる大事な一戦で、ロンドン金メダルのオーストラリアを倒して優勝。日本代表は同地域の代表国として、堂々と地球の反対側まで乗りこんだ。

そして、2016年9月リオパラリンピックが開幕。幸先よく2連勝し、メダル獲得へ好発進を魅せた日本代表のグループステージ最後の相手は、同じく2連勝中の強豪アメリカ。試合は延長戦にもつれこむ接戦の末に56-57の1点差で敗北するも、グループ2位で準決勝に駒を進めた。準決勝では昨年ぶりの再戦となるオーストラリアに惜しくも敗れ、3位決定戦へ。カナダとの銅メダルを掛けた勝負の一番となった。試合序盤に日本がリード。だがカナダが意地を見せ猛追。最後のブザーがなるまで緊張が続く試合展開。結果は、52-50で日本が勝利し、見事銅メダルを獲得した。

4大会連続4度目の出場で手にした悲願の銅メダル。開催国として迎える来年の東京パラリンピックではどのような結果になるだろうか。車いすラグビーがもう一度日本中を沸かせる日は、もうそこまで来ている。

2004 アテネ



8位

2008 ロンドン



7位

2012 北京



4位

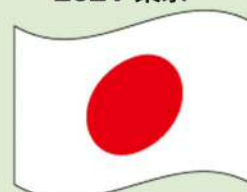
2016 リオ



3位 銅



2021 東京



? 位

WHAT IS

車いすラグビーって？

WHEELCHAIR RUGBY?

■ 1チーム12人まで登録でき、フィールド上では4対4で対戦する。選手の障害の程度によって持ち点が変わり、コート上の4人の合計点がルールで決められた点以内になるよう編成されている。

■ 8分間の試合を4回行う。バスケットボールと同じサイズのコートを使用する。ボールを持った状態でコート端のトライラインに達すると1点となる。ボールは、ラグビーボールではなく、専用のボールを使用する。

■ 競技で使用する競技用車いすには、攻撃型と守備型の2種類がある。攻撃型は細やかな動きを可能にするためコンパクトにできている。守備型は相手の動きを止めるために前方にバンパーが突き出している。

■ 魅力は、なんといっても車いす同士のぶつかり合い。かつては、その激しさから「マダーボール（殺人球技）」と呼ばれていた。



スポーツみらいアンバサダー

SPECIAL INTERVIEW

Q.将来の夢は何でしたか？

A. スポーツで日本代表になること

Q.趣味は何ですか？

A. スポーツをすること、見ること。ゲームでもやるくらい好きでした！
笑

Q.感銘を受けた本や映画は何ですか？

A. 本『なんのために勝つのか』（廣瀬俊朗/2015年/東洋館出版社）
映画『タイタズを忘れない』（2000年）

Q.長所は何ですか？

A. 冷静で理路整然としたところ。

Q.好きな食べ物は何ですか？

A. お肉ですね！笑 大事な試合や合宿の前にはしっかり食べて準備してました！

Q.尊敬する人は誰ですか？

A. 廣瀬俊朗。同い年で選手としても日本代表でキャプテンとしても活躍し、セカンドキャリアもいろいろなことに挑戦している姿に自分の可能性にチャレンジしたいと思わせてくれる。

Q.車いすラグビーと出会ったきっかけは何ですか？

A. 元々ラグビーをやっていて、練習中の事故で車いすになった時、落ち込んでいた時にリハビリを担当してくれていた先生に紹介され、試合のビデオを見せてもらったのがきっかけでした。車いす同士がぶつかり合う映像を見た瞬間の衝撃は今でも忘れられません。

Q.原動力や、モチベーションを保ち続けるために大事なことは何ですか？

A. いつ、どんな時でも自分の可能性を信じていること、自分にしか出来ないことが必ずあると信じていることでどんな困難でも頑張れるし、叶えた時の自分をイメージすると最後まで続ける気持ちを持てると思って色々なことにチャレンジしています。

Q.自粛期間はどう過ごしましたか？

A. 仕事も在宅勤務となり、スポーツ活動もほぼ出来ない状況となったので、子供が2人いるので普段ゆっくり遊ぶ時間も無かったのでたっぷり遊びました。アスリートとして、こんな時に何かできないかと考え、多くのアスリートのメッセージを届けるプロジェクトなども立ち上げました。

Q.車いすラグビーの魅力や試合での注目ポイントなどを教えてください。

A. 一番はやはり車いす同士のぶつかり合いですが、その中に緻密に張り巡らされている戦術や選手の動きにも注目してもらえると協議の奥深さをより感じられると思います。

Q.一番心に残っている試合やシーンを教えてください。

A. たくさんあり過ぎてどれも心に残っていますが、やはりアシスタントコーチとして参加し、銅メダルを獲得した2016年のリオパラリンピックです。選手としてパラリンピックでのメダル獲得を叶えられず、諦められずコーチとして挑み銅メダルをかけ、カナダと最後まで接戦となった試合で勝ちきり、メダルを獲得しました。試合終了の瞬間涙が溢れ、歴史が変わった瞬間、同じように感動してくれている観客の姿は今も目に焼き付いています。

Q. 東大阪市内で好きなスポットがあれば教えてください。

A. やっぱり花園ラグビー場ですね。ラグーマンですし、東大阪市の象徴だと思っています。

Q. 東大阪市内でおススメのお店があれば教えてください。

A. 上小阪のあたりにある「たこ秀」ですね。高校生の時にハードな練習の後の胃袋を満たしてくれる味とボリュームでお世話になりました！スタから丼がオススメです！

Q. 来年の東京2020大会開催に向けてどんな思いを持っておられますか？

A. 開催できるかどうかは誰にもわかりませんが、開催されればきっとパラスポーツの環境や障害を持つ人たちの新たな社会環境を作るきっかけになることは間違い無いと思っています。その時が来ることを願いながら今自分のできることをやり続けたいと思っています。

Q. 未来のトップアスリートを目指す子どもたちへ向けて、エールをお願いします。

A. いつもと違う生活にストレスも溜まっていると思います。僕も事故で車いす生活になった時、何も出来なくなると落ち込みましたが、こんな時に、こんな自分に何が出来るんだろうと考えた時に車いすラグビーというスポーツに出会ってたくさんの素晴らしい時間を過ごすことができました。そして今、来年のパラリンピックでの金メダル獲得を目指して今できることをひとつひとつ積み重ねています。みんなもこんな時だからこそ、出来ないことを数えるのではなく、今出来る楽しいことを見つけてこの時間を大切に過ごして欲しいと思います。



今回は、有名アスリート特集第4弾として、車いすラグビー元日本代表パラリンピアンで、現日本代表ACである三阪さんの特集をお届けしました。みなさん車いすラグビーを応援しよう！

最後に、ご協力いただいた三阪さん、本当にありがとうございました！

東大阪市スポーツみらいアンバサダー特集は今号で終了です。次は少し趣向を変えた記事になるかも？ 次回の更新をおたのしみに！